

東京ウィメンズプラザ令和3年度コーディネート研修（実践編）  
ケースに応じた連携方法と各部署の役割

# 他機関との効果的な連携を考える

女性の家HELP ソーシャルワーカー  
(元婦人相談員) 湯浅 範子

# 庁外各関係機関の特性と連携方法

- 日常的に連絡を取り合う関係か
- 相手機関の業務内容・勤務内容について理解しているか
- 共通の課題のために連携の必要を双方感じているか
- 信頼できる連携相手と認識しているか

# 一時保護施設との連携

- 公的シェルター（女性相談センター）  
入所の可否・期間・入所中の対応
- 民間シェルター  
入所の可否・期間・入所中の対応
- 宿泊所・宿所提供施設・母子生活支援施設



# 警察との連携

- 警察に当事者が先に相談していて、保護が必要なため警察から連携を求められる場合
- 加害者に警告してほしい、事件化したい、逮捕を望んでいる
- 荷物引き取りの立ち合いなどの協力を求めたい
- 保護命令発令後の協力体制を依頼等
- 保護命令違反事件への対応



## 児童相談所・子ども家庭支援センターとの連携

- DV被害者の同伴児の養育、虐待からの影響等
- DV被害者の同伴児の一時保護
- 加害者のもとにいる子どもの養育、安全
- 逃げない・逃げられないDV被害者のもとにいる子どもの保護



# 法テラス・弁護士との連携

- 離婚、親権等についての相談
- 調停、裁判の代理人
- 保護命令申し立て  
相談・依頼



# その他、連携の可能性のある機関

●医療機関



●保健所・保健センター



●民生委員・児童委員



●教育委員会・学校関係者・保育園



●ハローワーク・社会福祉協議会・住宅供給公社など



●民間支援団体・NPO等



# 連携する場合の注意事項

- 情報の共有のためには、必ず当事者の同意が必要
- 当事者に情報を伝えて、当事者がアプローチする場合
- 当事者に同行など、アドボケイトが必要な場合
- 情報共有のルールを決めておく
- 連携の申し入れがスムーズにいかない場合

# 連携を考えるための事例 1

Aさん専業主婦 40歳 高校生の長男と、中学生の長女、夫42歳の4人世帯。夫はIT系の会社員。最近在宅勤務の日も多く、Aさんに、生活のこまごましたことで、指示することが多い。言う通りにしないと、無視する、怒鳴るなど、機嫌が悪い。子どもたちにも、何かと、日常の些細なことで当たり散らす。言葉の暴力をAさんが我慢することで、かろうじて保たれていたが、長女が、大事にしていたゲーム機を壊され、父親に向かって行って殴られ、止めに入ったAさんも殴られた。このままでは、危険と思い、DVセンターに相談した。できれば、今日長女と家を離れたい。

## 連携を考えるための事例 2

長年夫の暴力に苦しんできたBさん（55歳）。夫は70歳、年金生活をしている。夫には持病があり、体力も衰えてきた。85歳の実母が、近くに一人暮らしして、Bさんは、毎日介護に通っている。

夫は、体調が悪いと、そばにいて、何かと世話を焼くよう口うるさく、実母のところへ行くのを、良く思っていない。ある日、夫の機嫌が悪く、Bさんが作ったご飯に髪の毛が入っていたのを怒り、食器を投げつけた。その日は、実母のところへ行って帰らず、一晩過ごした。これからどうしたらよいか、友人に相談したら、それはDVだと言われ、女性相談に行くよう言われてきた。

## 連携を考えるための事例 3

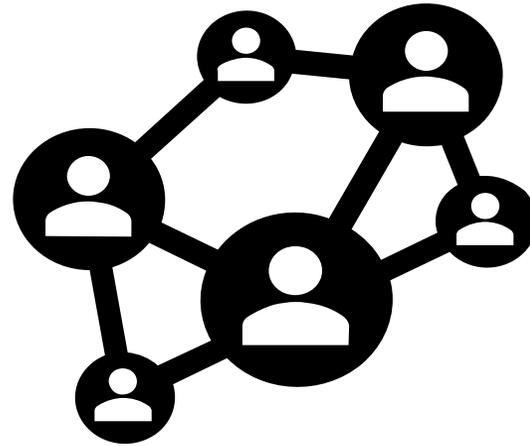
病院の看護師として長年働いているCさん40代。失業中の夫（50代と、長女13歳の三人家族、長女がかわいがっている猫がいる。Cさんの方が、元々収入が多く、夫は引け目を感じている。数か月前に失業し、もうすぐ失業保険の給付が終了するため、「意に沿わない仕事でも、就職したらどうか」と話したら、急に怒りはじめ、Cさんのキャッシュカードを取り上げ、以後、勝手に使って、返してくれない。外泊も多く、飲酒量も増えた。突然帰ってきて、怒鳴ったり、急に口を利かなくなったり人が変わったようだ。あるとき、猫を蹴飛ばしたため、長女が、父親にもものを投げた。しばらく、家を離れたいと思うが、仕事は休めない。

# さまざまな場合を想定して考える 1

- Aさんファミリーが、外国籍で、日本語が不自由な場合
- Aさんの長女が、長男だった場合
- Aさん本人または、こどもが、車いす使用者の場合 
- Aさんの長男（高校生）も一緒に保護を求めた場合

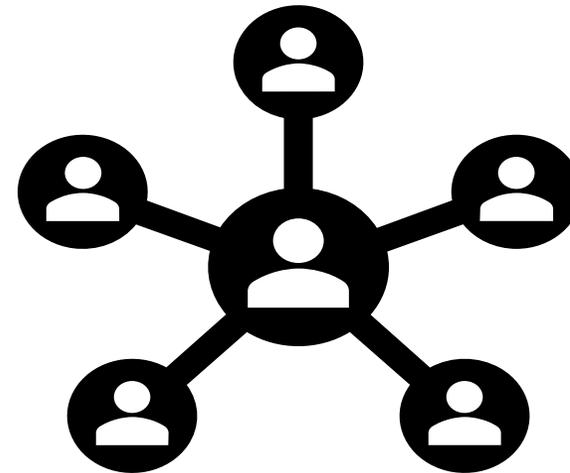
# このケースの連携先を考える 2

- 一時保護施設
- 介護保険関係
- 高齢者福祉課
- 医療機関
- 法テラス・弁護士



# このケースの連携先を考える 3

- 子ども家庭支援センター
- 一時保護施設
- 学校
- 動物愛護団体
- 保健センター
- 個人的な支援者たち  
(金銭的支援・居場所支援)
- 逃げない支援を考える



# 連携がうまくいかないときの考え方

- スーパーバイズを求める
- 上席（上司）から、話してもらう
- 時間をかけて、話し合う
- 何度も依頼する
- 第三者的な機関（人）に入ってもらおう
- カンファレンス・連携会議等を開く
- 最低限の連携以外は、あきらめる

# まとめ

- 連携を依頼されたら、相手の話を真摯に聞く
- 直接受けられないときも、知恵を出し合う
- 「忙しい」という理由で断らない
- ベストでなくてもベターを求める
- 連携を断られたり・いやな経験をして、次回あきらめない
- 苦手な相手・機関でも支援のために付き合う
- 一人で悩まないで、組織の悩みとして共有する